

腎臓内科

■腎臓内科医長 太田 康介

診療科紹介



医長 太田 康介

腎臓内科は7A病棟をホームグラウンドとして診療を行っています。

腎臓内科では、入院や外来でネフローゼ症候群や慢性腎炎の治療、慢性腎臓病の長期にわたる治療を行って

います。また最終的に腎臓が働かなくなった場合に透析治療を行い、あるいは腎移植への橋渡しを行っています。

透析治療は大きく分けて血液透析と腹膜透析があります。腹膜透析がより本来の腎臓に近い方法でありお勧めです。一方血液透析を受けられる方も多数おられます。当院では事前に透析や腎移植について十分説明して適切な治療を選択いただいています。

腎臓内科の治療、特に透析治療は看護師さん・臨床工学技士さん・薬剤師さんなど多くのスタッフの力を合わせたチーム医療を行っています。血液透析は7Aに透析センターを設け入院患者さんに対応しています。センターにて新規の血液透析、手術や検査などで入院中の患者さんの透析を担当しています。手術後など状態のよくない方が少なくありませんが、回復して退院されることが私たちスタッフの大きな喜びです。腹膜透析は入院で開始してその後外来で

治療を続けます。ご本人の手間は少し多いのですが、利点を活かしてよい状態を保つようにしています。

ネフローゼ症候群や慢性腎炎は、腎生検という検査を行って診断する場合があります。治療は副腎皮質ステロイドや降圧剤などを用います。入院から外来へと切れ目のない治療になります。糖尿病で腎機能がかなり低下した場合や透析が必要な場合は当科が診療に加わります。

膠原病などで腎臓病を合併する場合は当科が治療を行います。それ以外に関節リウマチの治療も行っています。

医師はこの4月に山崎浩子先生が加わり常勤医2名の体制です。さらに初期研修医が加わって診療に当たっています。7A透析センターは、看護師4名所属し、兼任で臨床工学技士7名が交替で従事しています。7A病棟看護師さんもチームメンバーです。診療規模としてはこじんまりとしていますがチームワークよく良質の医療を提供してゆきます。



医師 山崎 浩子